

エイズについて考える

院長

皆さんは12月1日が何の日か知っていますか？。世界エイズデーです。今回はエイズ（AIDS）について、少し考えてみましょう。エイズは、現在人類を蝕みつつある病気です。アフリカの状況は深刻で、人口の20%以上が感染している場所もあり、エイズによって人口が減少している国もあるのです。エイズによって、過去に2200万人が死亡しているといわれています。また、2001年の1年間に500万人が新たに感染し、300万人が死亡しているという報告もあります。

エイズという病気、皆さん言葉としては知っていると思います。でも本当の意味は、知らないかもしれません。エイズは後天性免疫不全症候群と呼ばれ、Acquired ImmunoDeficiency Syndromeの英語の頭文字のA.I.D.S.に由来しています。この病気は、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）によって引き起こされます。生まれつき持っている細菌やウイルスから体を守る反応を免疫と呼びますが、免疫不全とは免疫がうまく働かず体を守れなくなった状態を指します。免疫不全になると、普通の人には害の無い細菌やウイルス等に感染するようになります。このような感染を日和見感染と呼び、感染が引き起こされた状態をエイズと呼んでいます。HIV感染=エイズではなくて、5~10年ぐらいかかってエイズになるのです。病状が進行すると肺炎などの重症な感染症を合併し、いずれ死に至る大変な病気です。

感染経路については皆さん御存知かもしれませんが、三つあります。一つは性行為です。HIV感染者の精液や血液、膣分泌液を介して感染します。粘膜や皮膚に傷があるときなどには、可能性が高くなります。男性の同性愛者に多いのですが、男女間の性交でも感染します。二つ目は感染した母体から赤ちゃんへの感染です。胎内での感染やお産の時の出血、母乳からも感染する場合があります。もう一つは注射器や注射針からの感染です。医療機関では個別

に注射器や注射針を使い、使用後は廃棄するため感染の心配はありません。麻薬や覚せい剤を使用するときの使い回しによって、感染が広がるのです。



エイズがこれほど問題となる理由は、治療法が確立されていないからです。残念ながら発症を予防するようなワクチンはなく、治す薬もありません。現在行われている治療は、HIVの増殖を抑えることと、日和見感染の治療に限られます。病気の進行を押さえることに関しては、かなり進歩してきましたが、完治させることは出来ません。

治療法が確立していない以上、予防法が重要となります。予防法について説明する前に、今の日本の状況について考えてみましょう。週刊誌の「少年マガジン」にコンドームの使用を呼びかける広告が掲載されたことを知っていますか。最近特に若者中心にHIV感染者が増えていることから、エイズ予防財団が行った活動の一つです。厚生省の2001年エイズ発生動向年報では、国内の日本人HIV感染者は25~29歳の年齢層が最も多く、感染者数に占める割合は男性21%、女性26%に達しています。さらに20~24歳の層が男性9.8%、女性19.9%。15~19歳が男性0.7%、女性5.7%と年齢が低下しているのが、大きな特徴です。日本でもHIV感染が深く静かに先行し増加の一途を辿り、2010年までには3万人から5万人の感染者が発生するとの予測もあります。

治療法が確立していない以上、予防するしかありません。予防法で最も大事なことは、性のモラルの確立です。HIV感染者だけでなく、クラミジアや淋病といった性感染症も増加しています。このように性交による感染症の多くは、不特定の相手との交渉が大きな要因となっています。不特定の相手を避け、性感染症予防のためにはコンドームの使用が大切です。またエイズに対する理解を深め、病気の重大さを認識することも、とても大事なことです。妊娠に関してピルは有効なことは事実です。しかしピルはかえってAIDSのリスクを高めるかもしれません。妊娠に対する恐怖より、もっと怖いものがその先に潜んでいることを忘れないで下さい。

エイズの知識を子どもたちに伝えることも、親としての大切なしつけの一つなのです。自分のためだけでなく、子どもたちのためにも、少し真剣に考えてみて下さい。

・栄養育児相談

毎週水曜日 13:30~

栄養士担当

・「お母さんクラブ」クリスマス会

12月19日 14:00~

福沢市民センター



12月の
お知らせ

読者の広場

先月も24通のメールを頂きました。他県に引っ越しをした二人のお母さんからメールを頂いたので、紹介します。最初は大阪に引っ越した遠藤さんから。「お仕事ご苦労さまです。遠藤清香の母です。10月11日に、慣れ親しんだ仙台から大阪に越しました。今まで本当にお世話になりました。清香だけでなく私も、かわむらこどもクリニック、そして先生の存在がどれだけ心強かったか…。新しい土地への不安はあまりないけれど、やはり子供や母親にとって一番安心して通える小児科に逢えるか…。今は、ただただ清香の体調が悪くならないようにハラハラした毎日を送ってます…。相談なのですが、川村先生は、大阪に小児科医の知人はいませんか？。川村先生と同じような考え、理念をもっているような方はこちらにはいませんか？それから、先生がいつも出してくれたお薬をこっちの病院（薬局）でも言えば出してくれるのでしょうか？。それは無理な事ですか？。飲み薬はひよっとしたら年齢か何かで駄目だとしても、貼り薬はどうでしょうか？すみません、遅くなっても構いません。お返事よろしくお願い致します」。もちろんこのメールに対しては、携帯からなので短めにしっかり返事しておきました。「メールありがとう。返事遅くなりました。新しい土地なので、いろいろ心配でしょう。当院のような病院も、ちゃんと他にもありますよ。薬ですが、処方せんを持参すれば、同じ薬を処方してもらえるはずですよ。お元気で。何かあれば、いつでもどうぞ。いつまでもかかりつけですよ。」。次は千葉県に転居した、今村さんから。「お久しぶりです。千葉に住んでいる今村綾子の母です。仙台から千葉に戻ってもう、2年半になります。早いものです。今、綾子は風邪をひいていて、治りかけているところです。綾子が病気になるときに、先生のおっしゃった言葉を思い出します。「小児科は子供の病気を治すところだけど、お母さんを安心させるところでもあるんです」ほんとうに、そのとおりだと思います。いまだに子供が熱を出すと、おたおたしてしまいます。そのたびに、近所の小児科に行って、薬と共に「安心」をもらっているような気になります。来年は綾子も小学生です。これからも、どうぞよろしくお願い致します。」。転居した後でも頼ってくれる、有り難いことです。当院と同じような考えの小児科はたくさんあります。しっかり探せば、見つかるはずですよ。



今年も、もう12月。一年がたつのは本当に早いものです。年をとってくると余計に早く感じるのかもしれませんが、皆さんは、この一年はいかがでしたか？。患者さん専用のメールアドレスを設定して約2年（正確には2年と1ヶ月）です。この間に頂いたメールは、何と680通にもものぼりました。こんな形でコミュニケーションとれているのは、日本中探しても当院（他にあったらごめんなさい）だけだと思います。今年一年多くのお父さんお母さん方からたくさんのメールを頂き、ありがとうございました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

今年は自分にとっては、よい一年でした。骨折もなく、大病もせず。「小児科医がやさしく教える 赤ちゃんこどもの病気」の出版が一番でした。それ以外にも、河北新報の取材や講演会、テレビの取材、雑誌の取材や写真集。本当に忙しかったけれども、本当に充実した一年でした。来年もよい年になるよう努力したいと思います。

年末年始休暇のお知らせ

毎年御迷惑をおかけしますが、

12月29日（日）～1月2日（木）は休診です。

急患センター、北部休日診療所、休日当番医は診察をしています。

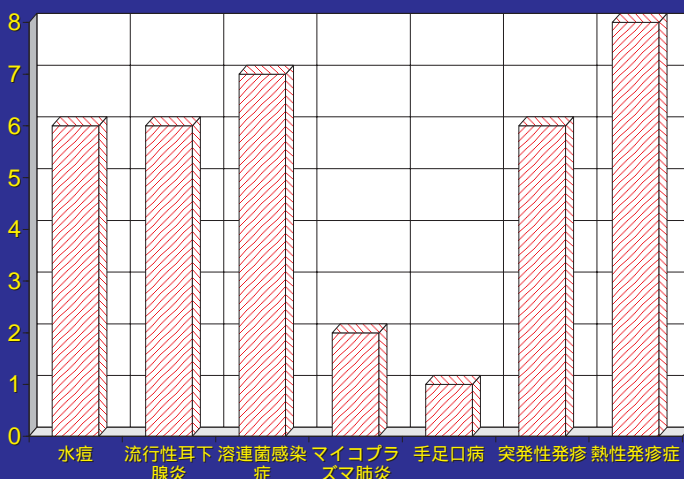
また、院長は12月29日（日）急患センター（日中）を担当し、1月3日（金）は在宅の休日当番です。

予防接種のお知らせ

インフルエンザの予防接種の予約受け付けます。接種は10月中旬以降の予定です。13歳以上は1回または2回の接種。昨年接種した方は原則として1回でかまいません。また13歳未満では、1～4週間の間隔で2回接種します。接種年齢は生後6ヶ月以降としています。

接種料金（1回） 3000円＋消費税

11月の感染症の集計



一時期姿を消していた水痘が、また増えてきました。おたふくは数が減っていますが、相変わらずあちこちで流行中です。溶連菌感染症も、多く見られました。マイコプラズマ肺炎や手足口病など、いろいろな病気があり、これが混雑の理由です。結膜炎や嘔吐下痢症、も比較的目立っています。しかし、現在までは、インフルエンザと確定された例はありません。

編集後記

11月は例年になく、忙しい月でした。仙台でもインフルエンザの発生が確認され、益々忙しくなりそうです。今年は年末年始に当番が当たっていますが、休暇を楽しみに今月は頑張ろうと思います。それでは、よいお年を！！

